

主 要 な 項 目

機能性

財務等の定量的診断を行う前提として、そのために不可欠な施設の機能やサービス内容を把握します。

なお、これらは事業活動収入の基礎となるものです。

費用の適正性

費用の状況について、良質なサービス提供に必要な支出が行われているか、また、冗費が生じていないかを把握します。一般の経営分析では、売上高に対する諸費用の比率は収益性の指標として整理されています。

福祉においては、必ずしも費用が安ければよいというものではないことから、費用の適正性という項目を立てました。

生産性

事業に投入した資源に対する産出量を評価するのが生産性であり、施設の保有する人員や設備が十分に活用され、それにふさわしい収入を上げているかを把握します。

一般的に、投入要素としては労働と資本が、産出高としては売上高と付加価値などがあります。

安定性

短期の支払能力や純資産の充実度の状況等を見ることによって、安定した施設の財政基盤が確立しているかどうかを把握します。

一般の経営分析では通常「安全性」と言われていますが、福祉施設においては財政基盤の安定が何よりも基本的に重要であることから、あえて「安定性」という用語を用いました。

収益性

事業に投下された資本や事業に対する収入の効率性を把握します。

一般的には、小額投資でより多くの利益を確保することが最大の課題となりますが、福祉においては、公共性が高いことを踏まえた上での把握が重要となります。